

「健康ひろば」は、身のまわりの病気から医療の現状や問題点に至るまで、社団法人 姫路市医師会のご協力を得て、幅広く情報を発信していくコーナーです。

WHOが掲げる健康の定義は、「完全な肉体的、精神的及び社会福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」(WHO憲章前文より)とされています。

このコーナーを通して健康に意識を向けるいい機会を提供できればと思っています。



新たな地域医療介護連携体制の構築に向けての医師会の取り組み

(社)姫路市医師会 理事 / 中谷病院 院長 中谷 裕司

姫路市民が安心して暮らせる体制を作るためには、医療・介護を担う機関がお互いの情報を共有し、急性期医療から回復期医療、療養期医療、介護、在宅医療に至るまで、地域内での連携を進める必要があります。医療崩壊といわれている現状をなんとかするために、医師が一致団結して市民の生命・健康を守るべく、限られた地域の医療資源を有効に活用する目的で、姫路市医師会では、新たな地域医療介護連携体制の構築に向けての取り組みを行っています。その取り組みについて紹介します。

平成20年5月に姫路市医師会に医療介護連携検討委員会が特別委員会として新設されました。各医療機関がお互いに担っている機能（急性期・回復期・慢性期・維持期等）を理解しあう目的で、平成20年6月には全医療機関対象の勉強会を開催し、医療機関同士の協力関係の土台が構築されました。

以後主に下記のテーマで検討を重ね順次運用を開始しました。

医療機能等の情報共有システム開発と運用については、平成21年5月より地域共通の診療情報提供書が作成され運用が開始されています。

在宅医療の推進とバックアップ体制の整備については、平成21年7月より在宅医療の充実のための在宅医ネットワークの構築の話し合いや、在宅患者急

変時等の受入れ体制の整備についての話し合いが行われています。

救急医療体制と地域医療介護連携体制との調整については、平成21年10月より実態調査を行い、全病院が関わった地域医療連携室全体会議で現状を把握し、改善に向けた話し合いが行われています。

疾患ごとの地域連携クリティカルパスの検討については、平成21年10月より糖尿病が、平成21年11月よりは循環器（心筋梗塞）が、専門の医師を中心としてかかりつけ医とともに検討がなされ始め今後運用予定です。今後がんに対する地域連携クリティカルパスも地域のがん拠点病院である姫路医療センター・姫路赤十字病院を中心に医師会が関わり検討され始める予定です。

このように医師会を中心として地域医療介護連携に取り組んでいますが、地域医療連携体制の整備には、地域の協力や住民の参加が重要であり、姫路市民や市行政の連携が不可欠と考えています。今後、医師会内での検討を更に進めるとともに、医療関係者に限らず、介護福祉関連業種の方々を交えた勉強会・講演会・意見交換会等を開催することで連携強化を図りたいと考えています。

今月号を持ちまして「健康ひろば」を終了いたします。
社)姫路市医師会の皆さまありがとうございました。

